

一般心理学編 第3部

全13巻

監修●東京大学教授 肥田野 直

■時間:各巻 約18分

1 環境の心理

〈指導〉名古屋大学 苅阪良二

●カラー

人間は環境に順応できるというものの、特別なあるいは異常な環境下において、人間の心理はどのような変化を起こすのだろうか。この作品は、高山における状況(低圧環境実験)・宇宙船における状況(ローテーティングルーム)・色彩変化における状況(環境順応実験)などを通して、特別な環境における心理学的影響について考察し、環境心理学の存在理由を明らかにしようとするものである。

2 感覚と知覚

〈指導〉千葉大学 大山 正

●カラー

人間が目で見ている世界は、カメラで写真を写すように、外界の状況を忠実に反映させたものではない。この作品では、さまざまな錯視図やカラーテレビなどによる色の錯視実験を通して、この違いを明らかにしようとする。色・明るさをはじめ感覚には順応と対比がある。対比は感覚の相互作用の例である。感覚は相互に関連し合い影響を及ぼし合っていること、知覚にはさらに過去経験も重要な役割を果たしていることを、実験例をあげて考察する。

3 学習成立の条件

〈指導〉筑波大学 藤田 統
牧野順四郎

●カラー

強化は学習成立の条件である。強化手続とはいかなる手続のことなのか。種々の強化スケジュールによって、どのような特徴的な反応率と反応パターンが示されるか。何が強化の本質なのか。この作品ではこれらの学習成立に関する中心課題を行動的及び生理的に追求する動物実験を紹介する。さらに、学習成立の先行条件である遺伝的背景と、成育初期環境条件の影響についても触れる。

4 オーガニゼーション

〈指導〉国士館大学 金子秀彬
立教大学 正田 亘

●カラー

この作品は、主題の性質と働きを(1)情報受容、(2)技能習熟、(3)問題解決、(4)速読法を通して描いている。技術進歩の方質は情報と操作にオーガナイズーションが成立することにあり、真に問題解決に役立つのは個々の情報でなく、オーガナイズされた知識であることを実験で示す。何がどうオーガナイズされ、それが精神活動にどのような効果をもたらすかの理解を目的とし、そのメカニズムを情報量的見方でもとらえることがこの作品の主旨である。

5 モティベーションと情動

〈指導〉同志社大学 松山義則
浜 治世

●カラー

人間は欲望によって発動され行動する。欲望、モティベーションは低次の空腹、渇、痛み、SEXなどにはじまり、不安、愛情などの社会的動機、さらに精神的意欲にまでひろがるのである。人間の行動を理解するためには、人間のモティベーションの科学的研究が基礎にならねばならない。この作品では動物や人間における代表的な実験的研究を紹介しモティベーションの現象、型、その機能などについて考察し、欲望の異常やその臨床的問題にもふれる。

6 思考のメカニズム

〈指導〉京都大学 梅本堯夫

●カラー

思考にはさまざまな形態がみとめられる。言語や記号にたよるものだけでなく、直観や動作にたよるものもある。この作品は、そのような思考の過程で目的と手段が次第に分化していくこと、また種々の方略がとられることを、様々な角度からそれぞれの事例によって描き、思考のメカニズムを明らかにしようとするものである。

7 問題解決の方略

〈指導〉千葉大学 多湖 輝
三浦香苗

●カラー

問題解決過程は、符号化—記憶—帰納—評価、演繹の5相に分割できる。この作品では、帰納—評価の2相に主たる焦点をあわせ Brain storming, KJ 法などがなぜ創造的問題解決を促進させるかを体験的に明らかにさせる一方、創造的活動を阻害する条件についてもふれながら、問題解決の方略を展開する。

8 判断のメカニズム

〈指導〉東京大学 二木宏明
河内十郎

●カラー

判断のメカニズムには、脳のなかでも「大脳皮質」ことに運動野にも感覚野にも属さないいわゆる「連合野」が深いかわりを持つとされている。この作品では、大脳皮質の分業体制、連合野の損傷でおこる失語・失認の症状、ヒトの左の脳と右の脳の働きの違い、サルを用いた連合野の働きなどについて描く。

9 ゲームの心理

〈指導〉北海道大学 戸田正直
篠塚寛美

●カラー

民族・国家・社会的相互関係のなかで働く心理要因は何か。ゲーム研究は、様々な場面における人間の行為の本質的な心理要因・思考要因を探るためのすぐれた手段を提供する。この作品では、異なる文化の児童を被験者とした国際比較研究や、青年を対象とした3人ゲームなどの具体的な実験ゲームの方法を通して、人間の意識や競争性、さらに相互信頼などに働く心理をそれぞれの枠から探求していく。

この作品は集団機能に関する心理学として、集団の主要機能の行動形態とその機能の発生機序即ち法則性を究明する集団力学について考察するものである。知覚判断に見出される集団的同調機能、集団規範のはたらき、集団の中核機能としてのリーダーシップの行動類型、その測定と妥当性、集団構造とコミュニケーション、意思決定への参加、集団決定の効果、競争と協同の研究などを多角的に描写する。

知能の測定は、現実の生活の中で強く要求されている。知能とは何か。知能は直接には見ることのできない抽象概念である。従って、知能の測定は知的な作業をとまなう行動を通して行われる。この作品は個人や集団を対象とした知能の測定法を取り上げ、新しい知能の測定理論や測定技術の方向性を多面的に考察するとともに、知能の本質を根本的に問いなおすことを目的としている。

日常生活では、人の行動様式のなかに様々な個性や人格が表出されることが多い。この人格を診断 (Diagnosis) するとは、そのことばのように、「よりよく理解する」ことである。この作品では、種々の視点から人の理解に接近するための原理や方法をみていきたい。それを通して、診断の結果を個々人に還元し、よりよい社会生活への実現に資するにはどうしたらよいか、そこにおいて人格診断の果たす役割を考察しようとしたものである。

全ての人間関係には、互いにパーソナリティの変化を促すような力が働いている。この機能を強めるために設定されたカウンセラーは、心理療法めいた面接をするだけではない。また、来る者は拒まず、去る者は追わず式に、待機しているだけではない。更に、社会・文化・制度・組織のスポークスマンに留ってはならない。一方、己を殺して人の話を聴くだけの者でもない。それでは、カウンセラーは如何なる役割を担っているのか。この作品はそれらを映像化したものである。

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp